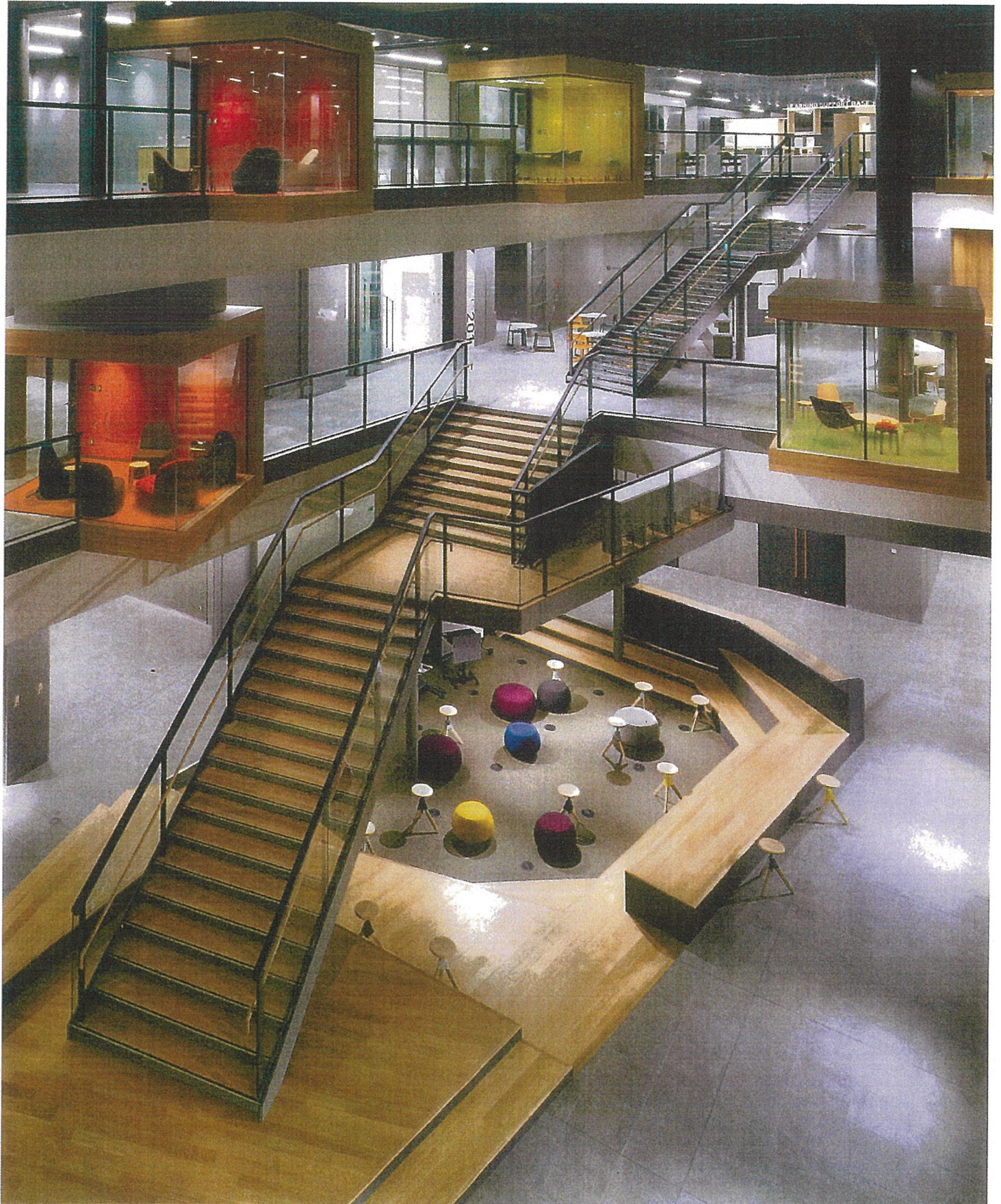




計画概要

本計画は老朽化等の問題で解体される大教室棟の第二校舎、小教室棟の第三校舎の単なる建替えではなく、今の時代に必要とされる学生が主体的、対話的に学ぶ新しい学修環境を併せ持つ教室棟を建設するものです。

第二校舎は、近代建築の大家として著名であった明治大学建築学科創設者の堀口捨己先生の設計であるため、設計思想や第二校舎の記憶を継承し、その学修環境を現代版に再解釈した建物や中庭を含めたキャンパス整備として計画を行いました。

デザインコンセプト

「学びの場」の集合体である校舎に、異なるサイズのグループボックスを配置することで、学生に様々な学びの場を提供し、同時にその活動そのものが建物のシンボルとなるデザインとしました。多様な活動をしている学生が主役となる空間づくりとして、グループボックスを中庭や室内から見えるように配置し、多様な場の中から好きな居場所を発見・選択し学修できる空間としています。

平面計画

多様な居場所により生まれる様々な場面展開、そこで行われる活動から生じる偶発的な出会い、そういう街のような姿を思い描き計画を行いました。低層ゾーンは1～3階にまたがる大きな吹抜けにより多層にわたる学生の活動が一望でき、見る・見られるの関係により情報の交流と学習意欲の向上を促す計画としました。

高層階の吹抜け周りは少人数の学修空間を主とし、集中した静かな空間としながらも見る・見られるの関係性を作り出しています。

大教室と小教室を1フロアに混在させることでフロアごとの人数を平均化するとともに、空間の多様性も高めています。また、その間にはテラスや外部への抜けを設け、外光あふれる街路のような空間としています。

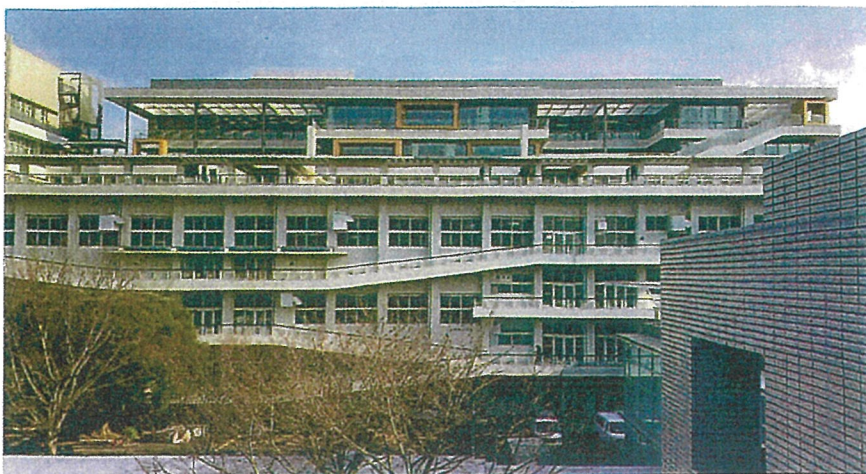
立面計画

第二校舎の外観デザインの特徴である大教室の床の傾斜に合わせた外部スロープの記憶を継承し、建物外部には木々を眺めながら歩くことのできる屋外テラス・屋外階段を配し、学生の活動が中庭からも感じられる計画としています。

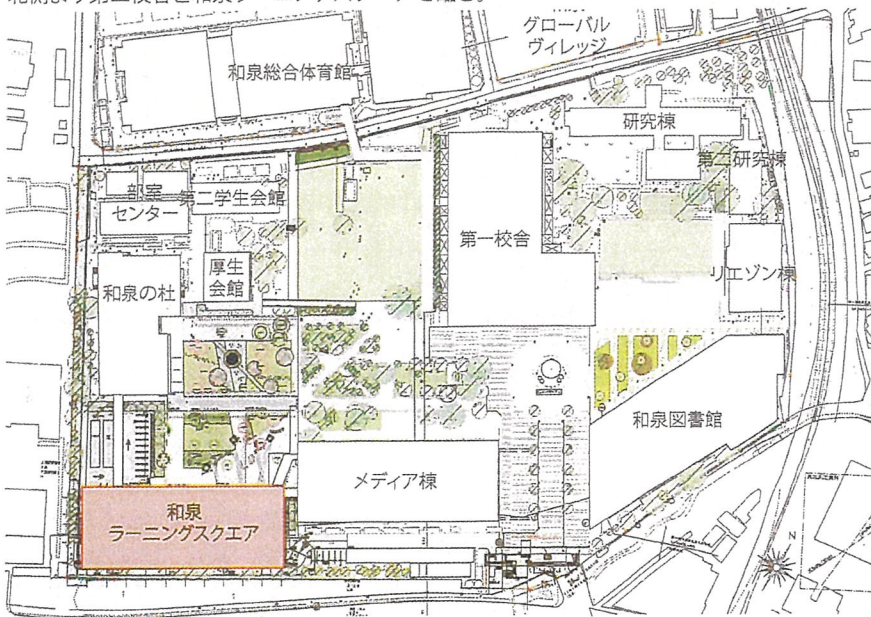
また、本建物のシンボルとなるグループボックスを、建物内外を繋ぐ形で配することで、学生の活動をショーケースのようにキャンパス全体にアピールする計画としています。

環境配慮計画

室内はひとつながりの大空間となっているため、空調は床下空調による居住域空調（人がいる高さだけを空調する方式）とし、快適性と省エネ性を高めた計画としています。開口部には Low-E ガラスを採用することで外部熱負荷低減を図ると共に、効果的に自然採光・自然通風を取り入れるハイサイドライトを吹抜け上部に設けることで、消費電力削減や空調負荷低減も図っています。



北側より第二校舎と和泉ラーニングスクエアを臨む。



和泉キャンパス全体配置図

建物概要

建築名称	明治大学 和泉ラーニングスクエア
所在地	東京都杉並区永福一丁目9番1号
敷地面積	53,224.17 m ²
建築面積	2,661.97 m ²
延床面積	12,241.52 m ²
構造	鉄骨造一部 CFT 柱
階数	地上8階
建物高さ	38.77m

工事概要

設計監理	株式会社松田平田設計
施工	建築工事：戸田建設株式会社 電気設備工事：日本電設工業株式会社 機械設備工事：大成温調株式会社 家具備品工事：株式会社清和ビジネス
設計期間	2018年10月～2020年3月(18ヶ月)
工事期間	新築工事：2020年3月～2022年3月(25ヶ月) 第二・第三・第四校舎解体、跡地整備工事： 2022年3月～2022年12月(10ヶ月)